

生産性向上

人材確保

基盤強化

3視点で新戦略検討

県の産業振興に向けた戦略を検討する「新・県ものづくり産業未来戦略会議」（座長・橋本和仁東大総長特別参与、物質・材料研究機構理事）の初会合は23日、富山市の県民会館で開かれた。県側は新戦略の策定で、生産性向上と高付加価値化、人材確保と育成、産業基盤強化の三つの視点に基づいて検討する方針を示した。

県ものづくり産業未来会議

現行の県ものづくり産業未来戦略は今年度が計画の最終年度となっている。生産年齢人口の減少や東京一極集中、第4次産業革命への対応など、ものづくり産業を取り巻く環境が変化していることを受け、来年度以降の新たな戦略を策定することにした。

新戦略の視点では具体的に、生産性向上でIoT（モノのインターネット）、ビッグデータなどの技術導入を図る。県が先駆けて取り

組んできたデザインと新素材など先端技術を融合して高付加価値の商品開発も目指すとした。

人材確保と育成では、コンソーシアム（共同体）によるインターンシップ（就業体験）の受け入れや外国人留学生などグローバル人材の活用、キャリア教育の充実などを検討する。

産業基盤の強化では、異業種の企業同士が技術を組み合わせる革新的な製品を生み出す「オープンイノベ

ーション」を進める。医薬品とアルミの共同体を形成し、新たな成長分野として健康増進、介護ロボットなどヘルスケア産業への参入も促す。県の産業支援機関

新たな県ものづくり産業未来戦略の検討視点

生産性向上、高付加価値化	人材確保と育成
<ul style="list-style-type: none"> IoT、ビッグデータ、AI、ロボットなどの導入で生産性向上 デザインと新素材など先端技術を融合して商品の高付加価値化、クリエイティブ産業育成 	<ul style="list-style-type: none"> 高度技術人材の確保 若手研究員・技術者、IoT人材の育成 コンソーシアムによるインターンシップ受け入れ 新幹線開業効果を生かした移住・U・Iターン促進 女性、高齢者などの活躍促進、潜在的労働力の活用 外国人留学生などのグローバル人材活用、外国人技能実習生の育成 キャリア教育の充実
産業基盤の強化	
<ul style="list-style-type: none"> オープンイノベーションの推進 産学官連携コンソーシアム形成（くすり、アルミなど） ヘルスケア産業への参入 3つの産業支援機関の機能拡充を通じた新産業の創出 	

を拡充して支援する。

課題や支援策
企業に聞き取り

県側は9月まで各企業にアンケート・ヒアリング調査を行って課題や必要な支援策を聞き取り、10月ごろの第2回会合で骨子案を審議するとした。来年1月ごろに戦略を取りまとめる。

富山政治

「オープンイノベーション」を進める。医薬品とアルミの共同体を形成し、新たな成長分野として健康増進、介護ロボットなどヘルスケア産業への参入も促す。県の産業支援機関

委員からは、連携でどこまで自社技術を公開できるかが課題になるとの指摘があった。石井知事は「海外と

大研究戦略センター教授）が企業間連携の事例を紹介した。

政府の未来投資会議で構造改革徹底推進会合イノベーション担当副会長を務める橋本座長が国の戦略、一村信吾副座長（早大研究戦略セン

を拠点に国内外の情報交流を進めるとした。

(3) 県内政治

2018年(平成30年)7月24日 火曜日

政治 行政 とやま

知見共有し技術革新

県ものづくり
産業未来会議

新戦略策定へ初会合

2019年度からの5カ年を見通した製造業の振興策を策定する「新・県ものづくり産業未来戦略会議」(座長・橋本和仁物質・材料研究機構理事長)は23日、県民会館で初会合を開き、人工知能(AI)など新技術の導入や、複数企業が知見を共有し技術革新につなげる「オープンイノベーション」を戦略に盛り込むことを確認した。

現行の戦略が本年度で終了することを受けた会議で、産業界や大学、行政の関係者27

人で構成。橋本座長はオープンイノベーションについて「守るべき技術は非公開にしても、人材育成などの部分は共有できる」と説明。委員からは「観光とものづくりを結び付けてアイデアを生み出したい」などの意見が出た。

石井隆一知事は、ものづくり研究開発センター(高岡市)に設ける「オープンイノベーション・ハブ」に触れ「国内外の情報を集めて提供するプラットフォームをつくらなければならない」と述べた。

会議は今後、県内企業に必要な支援策などを尋ねるアンケート調査を行う。結果を踏まえて再び協議し、来年1月ごろに戦略を取りまとめる。